自助
共助　公助

自主防災ひろしま

特集
土砂災害から身を守る

平成30年７月豪雨災害でお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆さまに心からお悔やみ申し上げます。
また、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

▲平成30年７月豪雨により被災した安芸区矢野東の様子（広島市消防局提供）

2018年 秋･冬
＜No.252＞

編集・発行
広島市危機管理室
TEL（082）504-2664

大雨のとき、いつ避難すればいいの？

７月の豪雨災害では、土砂災害に巻き込まれて多くの方が犠牲となりました。
土砂災害から身を守るには「避難」が有効です。
避難のタイミングを、気象情報と避難情報から確認しましょう。

雨雲が近づいてきたら、テレビやスマートフォンで気象情報をこまめに入手しよう！

そもそも「避難」って？

「避難」というと、地域の小学校など広島市が開設する指定緊急避難場所へ逃げることを想像される方が多いですが、それが全ての場合で適切であるとは限りません。真夜中や土砂降りの中で指定緊急避難場所へ移動することは逆に危険な場合もあります。また、自宅が土砂災害等の危険区域ではない場合は、自宅内の安全な場所に避難する（とどまる）ことが災害から身を守ることに繋がります。

気象情報	避難情報	市民のみなさんの行動 ポイント
雨が強くなると **大雨注意報**		
大雨が降り続くと **大雨警報**	**「注意喚起」**（自主避難の呼びかけ）	・気象情報をこまめに入手 ・地域の危険場所や避難場所を確認 ・非常持ち出し袋を確認
	発令されたら **「避難準備・高齢者等避難開始」**	・すぐに**避難**できるよう準備 ・高齢者など避難に時間がかかる方や不安な方は**避難**を開始
	※発令された小学校区の拠点的な指定緊急避難場所を開設します。	〇〇さん、危ないから一緒に避難しましょう！ 近所の人に声をかけて、一緒に避難しましょう。
さらに激しい大雨が続くと **土砂災害警戒情報**	発令されたら **「避難勧告」**	・速やかに**避難**を開始
数十年に一度の大雨になると **大雨特別警報・記録的短時間大雨情報**	発令されたら **「避難指示（緊急）」**	**・命を守る行動を！** 指定緊急避難場所への避難が難しい場合は、近隣の堅牢な建物に避難しましょう。 堅牢な建物がない場合には、危険な区域外への避難や、２階以上の山から離れた部屋へ移動しましょう。 なお、木造住宅は土砂により全壊する恐れがありますので、早めの避難を心がけましょう。

晴れているときに確認しておこう！

自宅が土砂災害等の危険区域か確認

【確認方法】

①「広島市防災ポータル」で確認

土砂災害だけでなく、洪水や高潮などの災害の恐れのある区域の情報、避難勧告や避難所の開設状況などの情報を、インターネットサイト「広島市防災ポータル」で確認できます。

②「わがまち防災マップ」で確認

各地域の自主防災組織の皆さんが土砂災害警戒区域等のハザード情報を基に、地域の危険箇所や避難場所などの地域独自の情報を盛り込んで作成する防災マップです。

各区役所地域起こし推進課や消防署が作成のサポートを行っています。

避難情報や防災情報の入手手段を確認

【入手手段】

「防災情報メール」に事前登録

避難勧告の発令や大雨特別警報の発表などの緊急かつ重要な防災情報などを、携帯電話、スマートフォンやパソコンへのメールで受け取ることが出来ます。事前登録が必要です。

登録用メールアドレス
entry@k-bousai.city.hiroshima.jp

スマートフォンは右のコードから

広島市消防局からのお知らせ

「秋の火災予防運動」 [11月９日～15日]

火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防意識の一層の普及を図ることで、火災の発生を防止し、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的として、毎年この時期に実施しているものです。

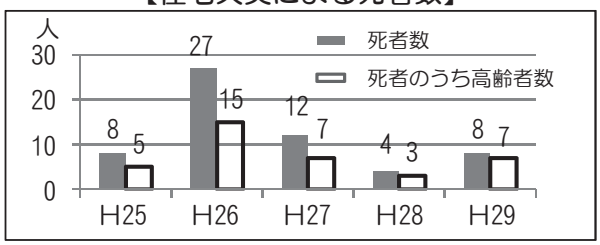
火気の取扱いに注意！

● 屋内での注意事項

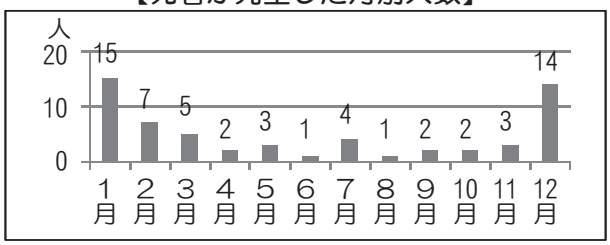
広島市消防局管内における住宅火災による死者の半数以上が65歳以上の高齢者です。死者の発生時期は12月～１月が多く、死者が発生した火災の原因や対策を知って、大切な命や財産を守りましょう。

1　住宅火災による死者数と月別発生人数（５年間）

【住宅火災による死者数】



【死者が発生した月別人数】



2　主な火災原因と対策

ストーブによる火災

□　ストーブにものが触れて火災になるのが特徴です。

対策

- ☑ 寝るときはストーブの火を消す
- ☑ ストーブで洗濯物を乾かさない
- ☑ 給油はストーブの火を消してから行う

たばこによる火災

□　くすぶった状態が続いた後に火災になるのが特徴です。

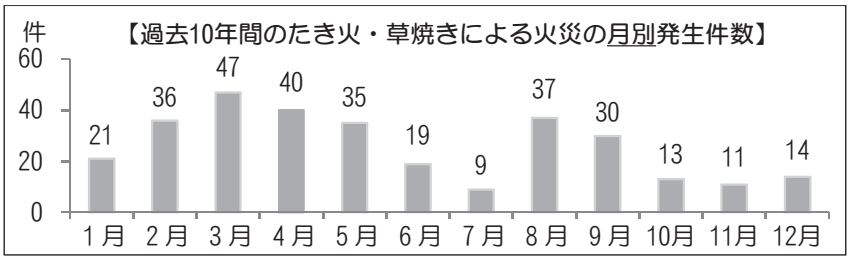
対策

- ☑ たばこは水に浸してから捨てる
- ☑ 灰皿にたばこの吸殻をためない
- ☑ 寝たばこは絶対にしない

● 屋外での注意事項

広島市消防局管内において、たき火などによる「屋外」での火災が増えています。特に、これから空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節となりますので、屋外での火気の取扱いには十分注意して下さい。

1　たき火火災の月別発生件数（過去10年間）



たき火火災発生件数（８月末現在）		
H30	31件	⇨ ***19件の増加！***
H29	12件	

今年は昨年を大幅に上回っており、特に注意が必要です！

2　「屋外」での火気の取扱い時における注意事項

対策

- ☑ 乾燥注意報、強風注意報が出ている場合は、火気を取り扱わない。
- ☑ 火気を取り扱う場合は、消火器、水バケツなどの消火器具を準備する。
- ☑ 火気を取り扱う間は、その場所を離れない。残火を完全に消火する。

枯草、伐採した枝などを燃やすことは、原則、法令で禁止されていますので、ごみ袋に入れて家庭ごみとして出すようにしましょう。ごみの出し方など、詳しくは、次の部署にお問い合わせください。

環境局業務部業務第一課（０８２－５０４－２２２０）

再生紙を使用しています。
広Ｙ２－２０１８－１１４（２）